

農推第1149-6号
令和元年9月17日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（9月）

大阪府内の9月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
台風の接近や長雨による作物への被害、病害の発生が多い時期ですので、事前にしっかりと対策するようにしましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稲	P.1～2
2 果樹(ぶどう、もも、いちじく、みかん、果樹類全般、バラ科果樹)	P.3～6
3 野菜(なす、トマト・ミニトマト、きゅうり、あぶらな科野菜)	P.7～11
4 野菜類・花き類	P.11～12
5 きく	P.13

水稲

9月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
					紋枯病	
					ニカメイガ	
					トビロウンカ	
			斑点米カメムシ類			
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) 発生に注意						

いもち病



※葉いもち

特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、使用時期（収穫前日数）に注意して**ブラシンフロアブル**などを散布する。

紋枯病



特徴

- ◆高温多湿時に多発する。
- ◆窒素過多、密植、分けつ多で発病が助長される。

防除のポイント

- ◆過繁茂にならないようにする。
- ◆発生を認めたら、使用時期（収穫前日数）に注意して**パリダシン液剤**などを散布する。

ニカメイガ



特徴

- ◆1年に2回発生する。

防除のポイント

- ◆わらの中で越冬するので、わらの処分を徹底する。

トビイロウンカ



成虫

特徴

- ◆気象条件により、風に乗って海外から多数飛来し、株元で吸汁加害して急激に増殖し、多発すると秋に坪枯れを生じさせる。

防除のポイント

- ◆トビイロウンカは水田内で局所的に発生するため、水田内を広く見回る。
- ◆多発ほ場では使用時期（収穫前日数）に注意して、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、トレボン乳剤などを散布する。

9月12日付で防除情報「水稻 トビイロウンカに注意！」を発表しました。
詳細はホームページを参照して下さい。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0109tobiuro.pdf>

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

特徴

- ◆畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

防除のポイント

- ◆使用時期（収穫前日数）に注意してトレボン乳剤などを散布する。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝

卵塊

防除のポイント

- ◆田植え後約20日経過後は、新たな食害被害は出にくい
が、貝の密度を低くするためにピンク色の卵塊を発見した場合は水中に掻き落とす。

詳しい生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料
「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう！」を参照してください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html>

果樹

9月前半の病害虫発生状況

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			褐斑病		
			べと病		
			ブドウトラカミキリ		
もも				せん孔細菌病	
いちじく			疫病		
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
果樹類全般			果樹カメムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意				

ぶどう

褐斑病



特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウェアなどに発生が多い。

防除のポイント

- ◆枯枝や落葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。

べと病



特徴

- ◆雨が多いと発生しやすく、雨が連続とまん延する。

防除のポイント

- ◆発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。
- ◆収穫後にICボルドー66D、ICボルドー48Qなどを散布する。

7月19日付で防除情報「露地ぶどう べと病に注意！」を發表しました。
詳細はホームページを参照して下さい。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/201907beto.pdf>

ブドウトラカミキリ



特徴

- ◆幼虫が枝の内部に食い入り、被害を受けた部分は黒くなる。虫のいる枝の先の新梢はしおれて枯れる。
- ◆成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食い入るのは10月上中旬。

防除のポイント

- ◆被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆収穫後の成虫発生時期に、スミチオン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤（収穫後秋期）などを散布する。

もも

せん孔細菌病



特徴

- ◆落葉痕部や枝の組織内で越冬する。

防除のポイント

- ◆薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。
- ◆被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆9月上旬～10月上旬頃にICボルドー412などを2週間間隔で計3回散布する。

いちじく

疫病



特徴

- ◆雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷わらやポリマルチ等により雨滴のはね上がりを防ぐ。
- ◆傘かけ資材を設置する。
- ◆ランマンフロアブル、レーバスフロアブル、アミスター10フロアブルなどを散布する。

温州みかん

黒点病



特徴

- ◆降雨が多くなると発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
- ※かんきつ（みかんを除く）ではジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤とも使用時期が収穫90日前までなので注意する。

ミカンハダニ



被害葉 ※

特徴

- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニコングフロアブル、コロマイト水和剤、マイトコーネフロアブル、ダニエモンフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

果樹類全般

果樹カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオン乳剤（かんきつ、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、かきなど）などを散布する。

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

一部地域で発生が多くなっているため、それぞれのほ場での発生動向には注意する。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

成虫の発生時期は過ぎましたが、フラスの排出は続いています。
確実に防除するためには被害の早期発見が重要です！被害状況を確認しましょう！！



幼虫

成虫

うどん状フラス

中華麺状フラス

特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆**若齢幼虫は中華麺状フラスを出す。この時期の防除が効果的。**



被害枝



ネット被覆（もも）

防除のポイント

- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

5月7日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を発表しました。
 詳細はホームページを参照して下さい。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/H3105kubiaka.pdf>

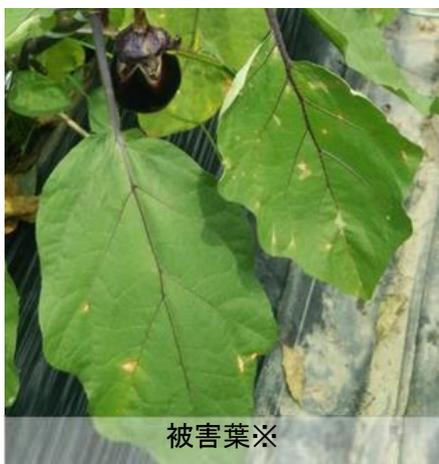
野菜

9月の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす				褐紋病 うどんこ病 アザミウマ類	
トマト・ミニトマト (施設栽培)			コナジラミ類		
きゅうり (施設抑制栽培)				うどんこ病	
		炭そ病・褐斑病			
		べと病			
		ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ)			
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)			ミナミキイロ アザミウマ		
			コナガ		
		ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)			
			根こぶ病		

なす

褐紋病



被害葉※

特徴

- ◆主に露地栽培で発生する。
- ◆雨が多いと発生が増加する。
- ◆かびの一種で葉・茎・果実に感染し、病斑を生じる。

防除のポイント

- ◆摘葉し、ほ場内の風通しを良くする。
- ◆発病を確認したら、小黑点（柄子殻）が生じる前に発病部位を取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、ベンレート水和剤を散布する。
- ◆種子伝染するため、感染した株からの採種は行わない。

うどんこ病



特徴

- ◆日照不足、他の病気に比べ乾燥条件下で多発する。

防除のポイント

- ◆発生前に、ベルコート水和剤、フルピカフロアブルを、発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤やアフエットフロアブルなどを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

なす

アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ）



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。
- ◆主にミナミキイロアザミウマは果実の側面を、ミカンキイロアザミウマは水なすの果頂部を傷つける。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、プレオフロアブル、ディアナSCを散布する。

メモ

- ◆ソルゴー囲い込み栽培の場合は、天敵による防除効果を高めるため、天敵に影響の少ない剤（プレオフロアブル等）を使用する。

トマト・ミニトマト(施設栽培)

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は定植後の早い時期に感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ベストガード水溶剤、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤などを散布する。

きゅうり（施設抑制栽培）

うどんこ病



特徴

- ◆日照不足、他の病気に比べ乾燥条件、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回 程度の使用に留める。

QoI剤の例：アミスター20フロアブル
ストロビーフロアブル
フリントフロアブル25

SDHI剤の例：アフェットフロアブル

- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆高温時や浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

炭そ病・褐斑病



炭そ病



褐斑病

特徴

- ◆窒素過多・肥切れは発生を助長する。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22度～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

べと病



特徴

- ◆肥切れは発生を助長する。
- ◆多湿環境下の15～28度で感染し、最適温は20～25度である。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブルなどを散布する。
- ◆発生を認めたらベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

きゅうり(施設抑制裁培)

ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)



幼虫*

特徴

- ◆施設抑制裁培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

防除のポイント

- ◆生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にゼンターリ顆粒水和剤、アファーム乳剤などを散布して防除する。

ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。
- ◆葉では汁が吸われ、その部分は色が抜ける。
- ◆葉裏では、被害部が光を反射して、テカテカ光る。
- ◆果実では、表面にサメ肌状の傷ができる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、プレオフロアブル、ディアナSC、アファーム乳剤などを散布する。
- ◆うね面にビニールフィルムでマルチを行うと虫の密度が下がる。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前かん注処理剤あるいは定植時施用粒剤と、本ぽでは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.nc.jp/osaka/>)
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫*

特徴

- ◆幼虫が芯葉を食害するため、株が芯止まりになる。

防除のポイント

- ◆被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイに**プレバソフフロアブル5**（キャベツ、はくさい）などをかん注するか、**プリンス粒剤**（キャベツ、ブロッコリー）などを施用する。

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶなどでは種前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。

野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

9月の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類 (露地)			オオタバコガ			
			ハスモンヨトウ			
			シロイチモジヨトウ			

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnpn.or.jp/osaka/>)
●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

オオタバコガ



なすの花を加害する幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食入孔のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

ハスモンヨトウ



若齢幼虫

特徴

- ◆8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アディオソ乳剤（さといも、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、ヨテツフロアブル（さといも、ずいき、オクラ、花き類など）、プレバソソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については
「ヨトウムシ類の見分け方」を参照

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

シロイチモジヨトウ



たまねぎを加害する幼虫

特徴

- ◆ねぎ・たまねぎに発生することが多いが、近年あぶらな科野菜での被害が目立っている。

防除のポイント

- ◆ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ◆分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる。
- ◆同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。
- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ）、アフアーム乳剤（ねぎ、しゅんぎく、花き類など）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

6月10日発表の防除情報

「シロイチモジヨトウに注意！」

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0106shiroiti.pdf>

きく

9月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				白さび病		
	アザミウマ類					黒斑病・褐斑病

白さび病



特徴

◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ジマンダイセンフロアブルなどを散布し、予防に努める。
- ◆発生を認めたらストロビーフロアブル、トリフミン乳剤を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)